

□■□■□■ トピック解説 □■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

ILOの活動内容、仕事の世界に係るトピックの解説を行っていきます。

第19回は、ILOの事業の一つ、「訓練とイノベーションを通じたディーセント・ワーク事業計画、通称Universitas (Decent Work through Training and Innovation Programme)」です。

◆◇訓練とイノベーションを通じたディーセント・ワーク事業計画 (Decent Work through Training and Innovation Programme) ◇◆

★概要

「訓練とイノベーションを通じたディーセント・ワーク事業計画 (通称Universitas)」は、2000年6月にILOがイタリア外務省と締結した信託基金協定に基づき開始されました。イタリア政府は、協定に基づき、2001～03年に340万ドルを拠出し、さらに700万ドルの拠出を約束しています。

これは1995年に開かれた世界社会開発サミットで定められた地域開発戦略・政策から発展したもので、ILOを構成する政労使三者、国連諸機関、大学・研究機関といった多様なパートナーが力を合わせ、ILOが推進するディーセント・ワークと人間開発に関する戦略の開発を試みる事業です。地域の事情と優先事項にあった訓練活動をはじめ、教育プログラム、ディーセント・ワークに関わる革新的な事業を通じ、地域経済開発に関する政府、労使団体、その他関係者の能力強化を目指しています。

地域経済開発は貧困軽減戦略の重要な要素と考えられています。そこで、Universitasは、貧困と社会的排除に対する戦いの基本である持続可能な開発を達成するため、地域経済開発、ディーセント・ワーク、人間開発を統合した手段の開発を提案しています。そのため、開発リーダーを対象とした教育訓練を支援し、世界各地の31の地域経済開発機関と協力しています。

★活動内容

現在、Universitasでは次の三つの事業が進められています。(1)地域開発に関する知識構築努力の支援、(2)ディーセント・ワーク、人間開発、国際協力に関する大学レベル国際プログラムの支援、(3)革新的施策の移転を通じた南南協力の支援。

◇地域開発知識の構築

地域社会・経済開発に関わる知識構築に向けた訓練活動を中心とした事業で、既に地域社会・経済開発の推進・支援事業に従事している機関と協力して進められています。地域開発のリーダー・担当者を養成する基礎訓練コース、地域社会・経済開発に関する知識の全国的普及、国内の大学における地域社会・経済開発に関する教育プログラムの支援、スポーツを通じた地域経済開発といった訓練プログラムが実施されています。訓練プログラムの開発及び実施に際しては、地元の大学に加え、カナダ、フランス、イタリア、スペインなどの地域経済開発に関する具体的な研究教育実績のある大学と協力して進められています。現在、キューバ、グアテマラ、ニカラグアで計画が開発され、モザンビーク、南アフリカ、ホンジュラスで立案が進められています。

◇ディーセント・ワーク、人間開発、国際協力に関する大学レベル国際プログラム

事業国における大学と協力し、グローバル化における地域人間開発に関する大学及び大学院レベルの学習計画の強化支援活動を行っています。人間開発及び国際協力に関する国際修士号プログラム、国際労働大学といった構想も進行中です。国際修士号プログラムは、グローバル化の流れの中における地域開発過程で重要な役割を演じている、国、地方自治体、地域開発機関、NGO、国際機関、労働組合の専門家などを対象に実施されるものです。国際労働大学は、労働組合の戦略的な能力を高め、労働組合と学界の協働関係を強めるため、基本的に組合関係者を対象に、持続可能な開発、社会正義、国際労働基準及び労働組合について指導する1年間の修士課程です。

◇革新的施策の移転を通じた南南協力

世界社会開発サミットなど90年代に開催された国連サミットで提起された国際開発綱領の実施に当たり、ILOは特に仕事に関わる人間開発の問題に、革新的な解決策

を適用することを推進しています。そこで、この事業では、他の開発機関との補完性を探求しつつ、地域開発におけるリーダーや意思決定者のためになる調査研究、**教育**研修を行っています。人間開発の分野における革新的施策とディーセント・ワークの概念を用いることによって地域開発プロセスの効率性を高めることを目指し、途上国同士が互いに社会、経済、技術面の革新的施策の知識経験を移転し合うよう奨励するものです。これは国連開発計画（UNDP）との協力事業であり、実施は国連プロジェクト・サービス機関（UNOPS）が行っています。

★パートナーシップ

UniversitasはILO内外の幅広い協力事業です。ILO事務局内では、労働者活動局、使用者活動局、社会保護総局、社会対話総局、雇用総局、開発協力局などが関与している、部局の枠を越えた一大事業です。ILO外では、UNDPやUNOPS、国連事務総長の「スポーツによる開発と平和ネットワーク」といった国連諸機関に加え、コーネル大学（米）、ピエール・メンデス大学（仏）、ヨーク大学（カナダ）などの**教育**機関と緊密に協力しています。

★最近の動き

◇開発と平和のためのスポーツ

人間開発は社会と経済の進歩を確保し、貧困と戦うカギになります。健康な職業人を形成する基礎となり、若者の心身の発達に寄与するなどの点で、スポーツは人間開発にとって重要です。スポーツにはかなりの経済波及効果もあり、2000年9月に国連ミレニアム総会で定められたミレニアム開発目標の達成に寄与する具体的な方法ともなり得ます。

Universitasは、国際オリンピック協会（IOC）、国際サッカー連盟（FIFA）などのスポーツ団体と協力し、スポーツを通して地域経済開発を促進する努力も行っています。既に、アルバニアとモザンビークで事業枠組みが合意され、インフラ整備、若者のスポーツ活動の奨励、コーチの育成、スポーツ用品製造業の支援といった活動が実施されています。今年4月には、国連の開発諸機関とスポーツ業界の代表が集い、スポーツと開発に関する経験や良い慣行を共有する初のワークショップが開催されました。ワークショップでは、国連諸機関の開発課題の主流にスポーツを据えるという活動目的についての合意が確認され、開発活動におけるスポーツに関する新たなアプローチが提案されました。

◇国際労働大学学生募集

Universitasの国際労働大学は2004年10月に開講します。労働政策とグローバル化に関する1年間の大学院課程として、授業は、ドイツの二つの大学（前期はカッセル大学、後期はベルリン経済大学）で英語で行われます。労働組合がディーセント・ワーク目標の価値を推進するための能力を強化し、雇用、社会保護、国際労働基準の実施といった社会経済政策事項に関わる社会対話に、より効果的に従事できる能力を育成するため、授業は20人程度の少人数で行われます。グローバル化の中での持続可能な開発の価値と目標、国際統治、開発と雇用の経済学と権利、社会政策と公務、労使関係と団体交渉、組合の組織化と運営、労働組合の政策、社会正義、ディーセント・ワークといったカリキュラムが予定されています。国際労働大学2004年度の出願期限は2004年3月15日です。